

小児病棟は15歳以下の子どもは感染予防のために病棟に入れない病院がほとんどで、保護者が面会に行く数時間、きょうだいは病院の廊下に座って待っています。赤ちゃんがベビーカーのまま廊下に置かれていることもありましたが、2歳くらいの小さな子がずっとお母さんを求めて泣き続けている隣に座った中学生の清田さんには、この子のことは大人は誰も気にしていないように見えて絶望的な気持ちになったそうです。

もう1つは弟さんの心臓が止まって生死をさまよっている時、ICUの前の廊下で1人泣いている清田さんに温かいお茶を出してくれた人がいたことです。同じように危篤の家族の見舞いに来ていた人が見ず知らずの中学生に話しかけてくれた、この経験から「こんな風に病気の人の家族にお茶を淹れてお話を聞けるような仕事をしたい」と思うようになったそうです。

しぶたねの活動は「きょうだいの支援」と「支援者を増やす」ことで、きょうだいの支援として、病院でのきょうだいの居場所作り・ZOOMでのきょうだいのおしゃべり会や、きょうだい仲間と出会い、とことん遊ぶワークショップを開催しています。

寂しさや不安や、時には嫉妬の中で頑張るきょうだいたちに、見守る大人がいること、大事にされていることを実感してもらいたいと願う温かい活動です。

きょうだいの支援者を増やすために全国で研修会を行っていて、シブリングサポーターは1700人を超えました。きょうだいの生き辛さが社会の課題として認識され、温かい社会になることを目指して4月10日の「きょうだいの日」にあわせて啓発活動を行っています。

社会の理解が広がることで、親亡き後に病気や障がいのある兄弟姉妹を支えるのはきょうだい当然なのではなく、きょうだいの人生も守られることが当たり前になるように社会を耕していく活動にも力を入れたい、と話されました。



【「しぶたに」のキャラクター “シブレンジャー”】

きょうだいたちが子ども時代を安心の中で「子ども」として過ごせること、これが清田さんが活動を始めた当初からずっと変わらない目標です。

☆祝☆ 新成人・還暦を迎えられた 大阪市手をつなぐ育成会の会員の皆様をご紹介します〈その2〉

今年度、新成人となられる皆様、還暦を迎えられる皆様、おめでとうございます。

大阪市育成会の会員の皆様の中では、新成人となられる方が4名、また還暦を迎えられる方が8名いらっしゃいます。1月号に続き、ご家族や支援者にご協力いただき、お話をお伺いした皆様をご紹介します。

祝・還暦 ☆ 福島育成園(入所)支部 土倉 ひとみさん

性格や好きなこと

壁面の貼り付け作業やお買い物やドライブにいくことが大好きです。新しい職員や利用者さんにも積極的に話しかけてくれたり色々と教えてくださいます。

笑顔が素敵などとても人懐っこい人です。



【こいのぼりをテーマに仲間と壁面を作成】

長所や自慢できるところ

「…でしょうか？」と声をかけてくれて、お手伝いを積極的にしてくれます。毎日の廊下のモップ掛けや、拭き掃除など進んで職員と一緒にしてくれます。

綺麗好きの頑張りやさんです。



【大好きなコーヒーとおやつでほっと一息】

一番の思い出

旅行にいったこと。またいつか行きたいなあ。



【お誕生日にリクエストしたチョコレートケーキで利用者の皆さんや職員と一緒に祝いしました】

これからの目標や希望

お仕事がんばります！

